

IIXIL カルエードシグマⅢ／カルエードシグマⅢ 1500

基本・縦連棟



MAL904D

取付説明書

- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- 施工は必ず専門の工事業者の方が行なってください。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味



注意

- 取付けを誤った場合に、使用者などが中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号



ポイント

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。



- 取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。
- 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。



補足

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

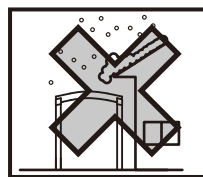
※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

<施工の前に>



注意

- 当製品は簡易型車庫です。物置・遊び場あるいは住居の一部等への転用を目的として、みだりに改造・変更をしないでください。
- カルエードシグマⅢは積雪（新雪）20cmを超えない地域に設置してください。
- カルエードシグマⅢ 1500（積雪地域用1500タイプ）は積雪（新雪）50cmを超えない地域に設定してください。
- 建物の屋根から落雪を直接受けない位置に設置してください。
- 強風地域、特に崖上、屋上、風の通り道上等の施工は避けてください。
- 施工場所に寸法的に正しく納まるかどうか確認してください。
- 給湯器や暖房機等の熱排気が製品内にこもるような場所に施工しないでください。排気による中毒のおそれがあります。
- 傾斜地に設置する場合は、低い場所の埋込み深さを確保してください。
- 落雪後枠をご使用の際は、雪が落ちやすい構造のため、隣地から最低50cm程度離して施工してください。また施工する敷地の条件によってはさらに離して施工してください。



ポイント

- 給湯器や暖房機等の熱排気が製品に当たらないように施工してください。排気による塗装劣化・剥離（はくり）のおそれがあります。

<基礎工事について>

⚠ 注意

- 基礎部の埋込み深さは製品ごとに決めています。現場によって（軟弱な地盤等）基礎部のコンクリートの量（体積）を十分配慮してください。
- 寒冷地で凍上するおそれのある地域で使用する場合は、凍上線の下まで基礎を設けてください。強度低下の原因になります。
- 柱内の水抜きができるよう、基礎には必ずぐり石を敷き、柱と基礎の付け根に水抜き穴（φ6）をあけてください。柱内の水が凍結膨張し、柱が破損するおそれがあります。
- モルタルやコンクリート等が製品の表面に付着した場合は、速やかに拭取ってください。シミやムラ等の外観不良の原因になります。

🔑 ポイント

- モルタルやコンクリートには、塩分を含む砂（海砂）および塩素系強アルカリのコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤等）は使用しないでください。使用するとアルミ等の金属が腐食する原因になります。必要の場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。

<施工の際に>

⚠ 注意

- 「使用上の注意」ラベルを貼っている柱に縦樋を取付けると、表示が見えなくなります。縦樋を取付けない側に表示ラベルを向けてください。
- ボルト、ネジは当社指定品を指定本数使用し、ゆるまないように締付け固定してください。
- アルミ製品が垂鉛、ステンレス以外の金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
- 製品の改造や、指定箇所以外の穴加工はしないでください。
- 水濡れのおそれがありますので、指定の箇所にシーリングをしてください。
- シリコンシーリング材を使用する場合は、ポリカーボネート板のひび割れ等のおそれがありますので、当社指定の脱アルコール系シーリング材を使用してください。

シーリング材メーカー	品名および品番
信越化学工業	シーラント72
モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン(合)	トスシール380
東レ・ダウコーニング(株)	SE960

🔑 ポイント

- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、手、足の保護具）を正しく使用してください。
 - ・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。
特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
 - ・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
 - ・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
- 製品についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は、補修塗料で補修してください。

<施工の後に>

⚠ 注意

- ☐ ボルト、ネジを増し締めしてください。

🔑 ポイント

- ☐ 取扱説明書は施主様にお渡しください。

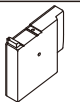
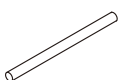
INDEX

1	梱包明細表	4
2	基本寸法と各部名称	7
	1. 各部名称	7
	2. 基本寸法	9
3	基本の施工方法	12
	1. 基礎の施工	12
	2. 柱と梁の取付け	13
	3. 母屋・後枠の取付け	14
	4. 側枠・アーチの取付け	15
	5. 屋根パネルの取付け	16
	6. 縦樋の取付け	17
4	縦連棟および延長タイプの施工方法	18
	1. 基礎の施工	18
	2. 本体の連結	23

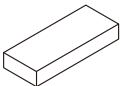
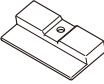
1 梱包明細表

※施工の前に梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。

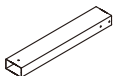
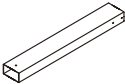
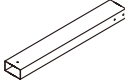
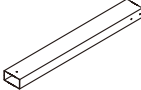
【1】 部品セット

名 称	略 図	員 数						
		600タイプ		1500タイプ		1500タイプ(落雪) オプション		共通
		50型	57型	50型	57型	50型	57型	14型
後枠コーナーキャップR		2	2	—	—	—	—	—
後枠コーナーキャップL		2	2	—	—	—	—	—
後枠コーナーキャップR (1500用)		—	—	2	2	—	—	—
後枠コーナーキャップL (1500用)		—	—	2	2	—	—	—
後枠コーナーキャップR (落雪用)		—	—	—	—	2	2	—
後枠コーナーキャップL (落雪用)		—	—	—	—	2	2	—
ブラケットカバーR		4	4	6	6	6	6	2
ブラケットカバーL		4	4	6	6	6	6	2
アンカー棒		4	4	6	6	6	6	2
穴隠しシール		28	28	42	42	42	42	14
雨樋アタッチメント		2	2	2	2	2	2	2
雨樋穴ふさぎキャップ		2	2	2	2	2	2	2
アタッチメントパッキン		4	4	4	4	4	4	4
ドレンエルボ 40φ用		2	2	2	2	2	2	2
92° エルボ φ40用		4	4	4	4	4	4	4

【1】部品セット(つづき)

名 称	略 図	員 数						
		600タイプ		1500タイプ		1500タイプ(落雪) オプション		共通
		50型	57型	50型	57型	50型	57型	14型
でんでん		6	6	6	6	6	6	6
パネル緩衝材		40	40	40	40	40	40	16
接着剤		1	1	1	1	1	1	1
アーチカバーキャップ		—	—	—	—	16	18	—
【1-1】 M8×20六角ボルト(平座金・緩み止め付)		24	24	36	36	36	36	12
【1-2】 φ5×55サラタッピンネジ		4	4	6	6	6	6	2
【1-3】 φ5×14トラスネジ		8	8	13	13	13	13	4
【1-4】 φ4×10ワッシャーヘッドネジ		150	164	160	174	160	174	50
【1-5】 φ4×13ナベドリルネジ		68	75	68	75	68	75	21
【1-6】 φ4×13ナベドリルネジ(色付き)		—	—	—	—	17	19	—
取付説明書	—	1	1	1	1	1	1	—
取扱説明書	—	—	—	1	1	1	1	—

【2】支柱セット

名 称	略 図	員 数				
		2本入	ロング・(凍上標準) 2本入	(凍上ロング) 2本入	H28 1本入	(凍上H28) 1本入
標準柱 H18		2	—	—	—	—
ロング柱 H23・(凍上標準柱)		—	2	—	—	—
(凍上ロング柱 H23)		—	—	2	—	—
ロング柱 H28		—	—	—	1	—
(凍上ロング柱 H28)		—	—	—	—	1
取扱説明書	—	1(—)	1(—)	—	1(—)	—

※()内は1500タイプのための設定です。

【3】梁セット

名 称	略 図	員 数	
		2本入	1本入
梁		2	1

【4】ブラケットセット

名 称	略 図	員 数
		2本入
ブラケット		2

■ 梱包明細表 (つづき)

【5】 豎樋セット

名 称	略 図	員 数	
		L3100	L1000
豎樋 L=3100 φ40		1	—
豎樋 L=1000 φ40		—	1

【6】 幅セット

名 称	略 図	員 数	
		50型	57型
側枠		2	2
側枠カバー		2	2
アーチ		6	7
アーチカバー		6	7

【7】 後枠セット

名 称	略 図	員 数		
		50型	57型	14型
後枠		2	2	2
後枠 (1500用)				
後枠 (落雪用) ※1500タイプ オプション				
豎樋 φ40		1	1	—

【8】 母屋セット

名 称	略 図	員 数	
		27用	30用
母屋		3	5

【9】 屋根材セット

名 称	略 図	員 数		
		1枚入	3枚入	4枚入
屋根パネル		1	3	4

【10】 連棟用幅セット

名 称	略 図	員 数		
		50型	57型	14型
アーチ		7	8	2
アーチカバー		7	8	2

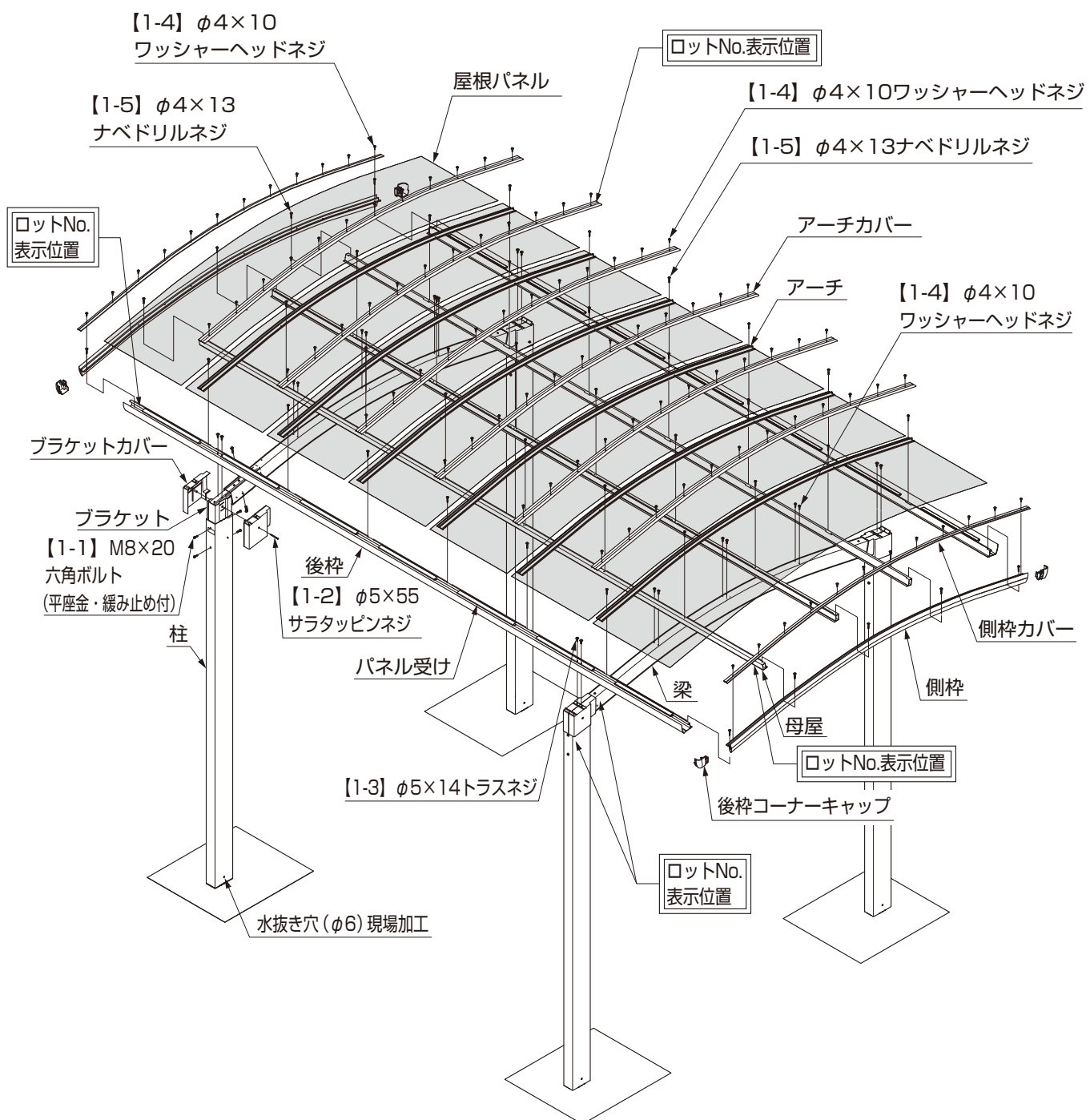
【11】 連棟部材セット

名 称	略 図	員 数	
		27用	30用
後枠スリーブ		2	2
後枠スリーブ (1500用)			
後枠スリーブ (落雪用) ※1500タイプ オプション			
母屋スリーブ		3	5
【11-1】 φ4×13 ナベドリルネジ		46	62

2 基本寸法と各部名称

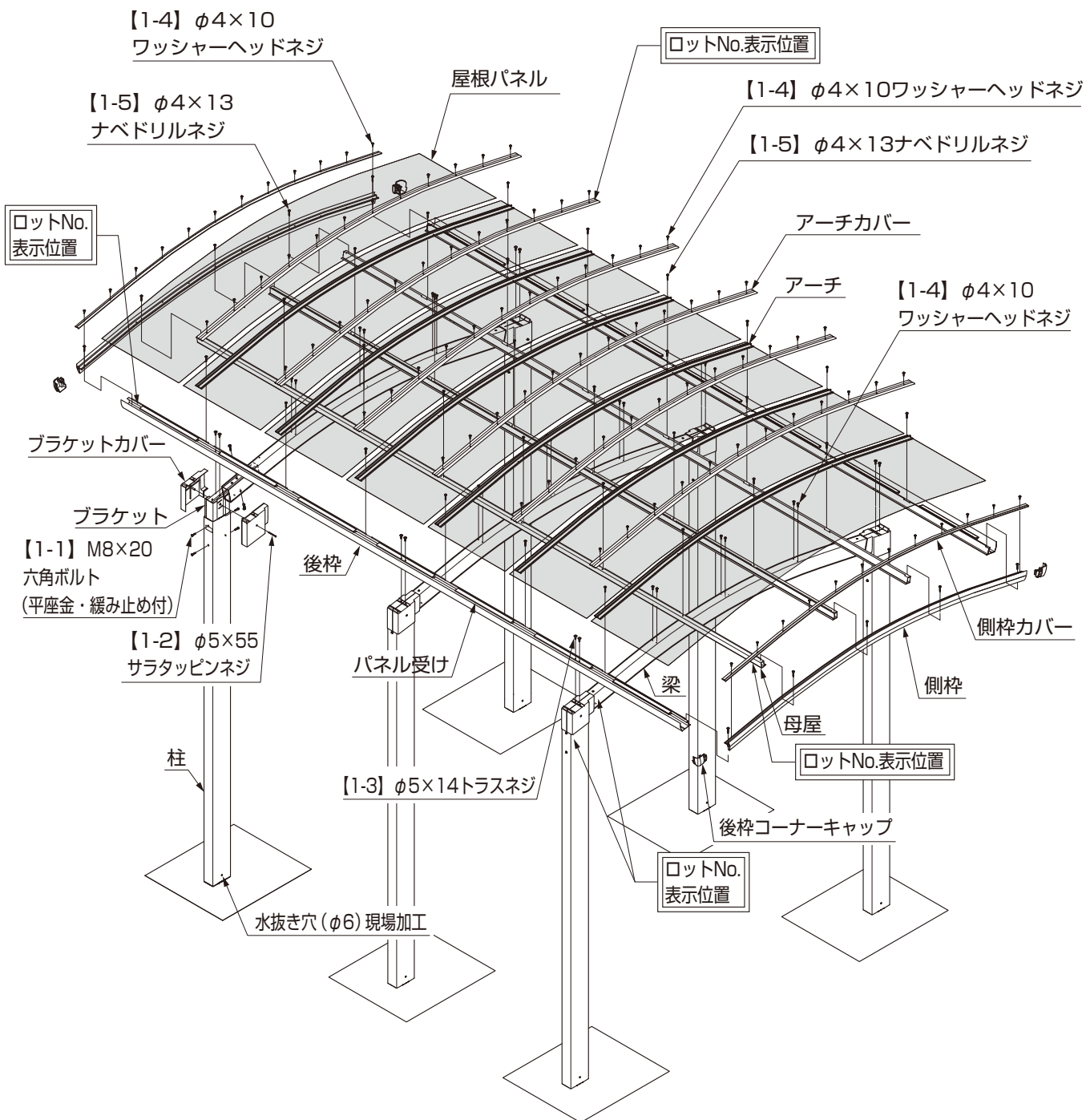
1. 各部名称

1-1 600タイプ



1. つづき

1-2 1500タイプ



※図は標準柱仕様を示します。()はロング柱23仕様、[]はロング柱28仕様を示します。
※構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

2. 基本寸法

2-1 間口 ※600・1500タイプ共通です。

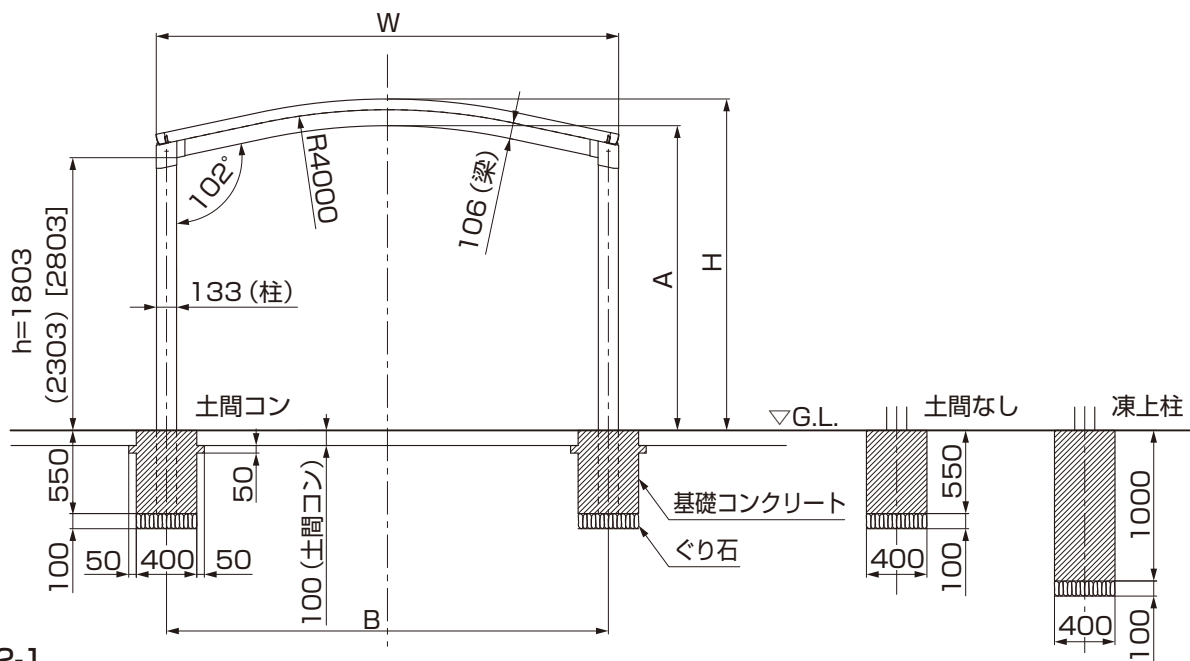


表2-1

間口	W	A	H	B
27	2741	1981 (2481) [2981]	2158 (2658) [3158]	2605
30	3057	2015 (2515) [3015]	2191 (2691) [3191]	2921

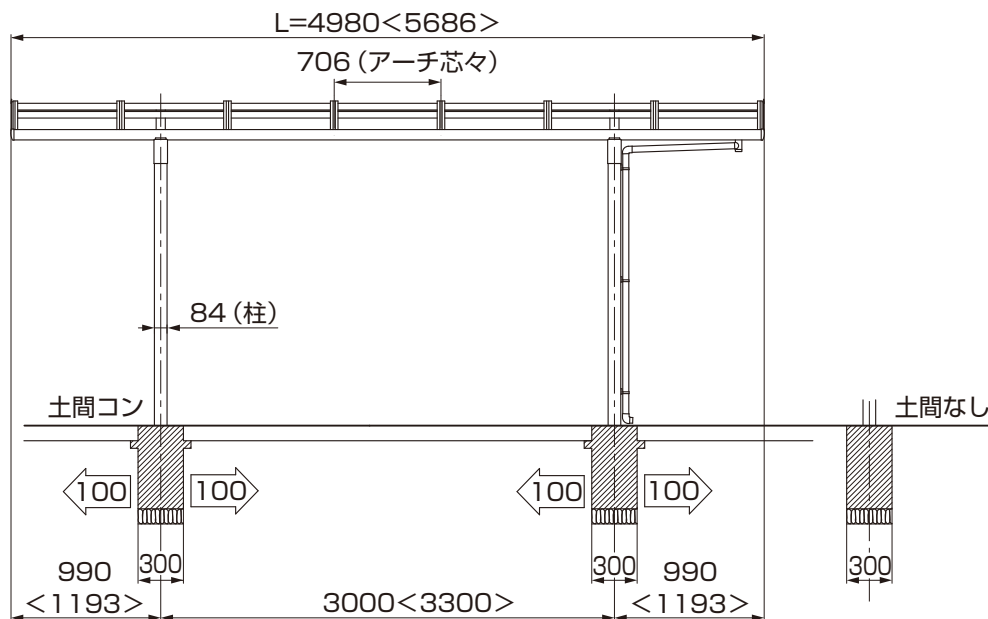
 補足

- 凍上柱は1500タイプのみ設定となります。
- 凍上標準柱の高さ(H)は、標準の+50mmになります。

2-2 奥行き50・57型 ※柱芯々寸法は±100mm以内にしてください。

※＜ ＞は奥行き57型を示します。

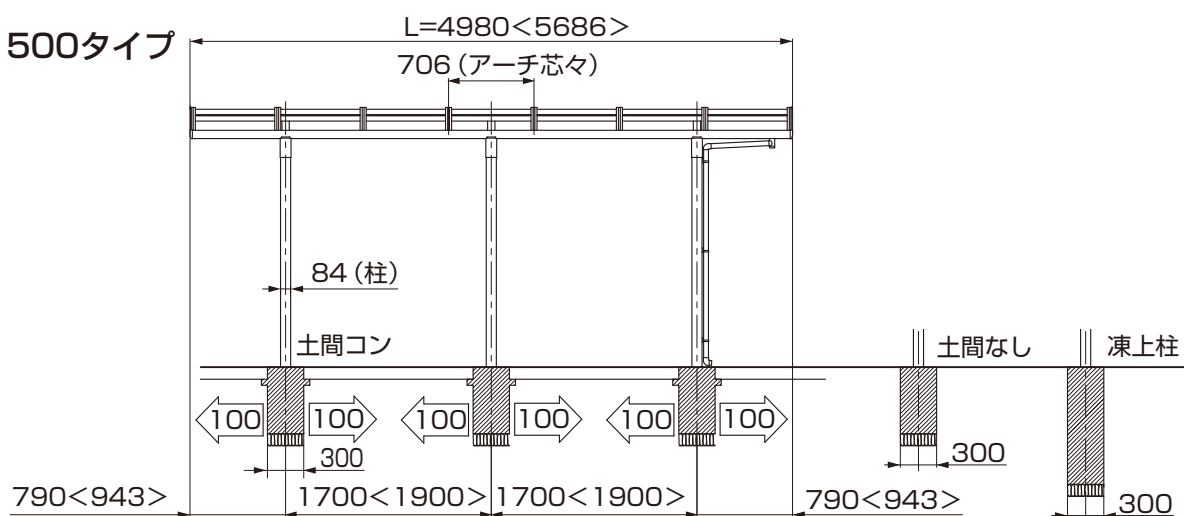
(1) 600タイプ



2. つづき

2-2 つづき

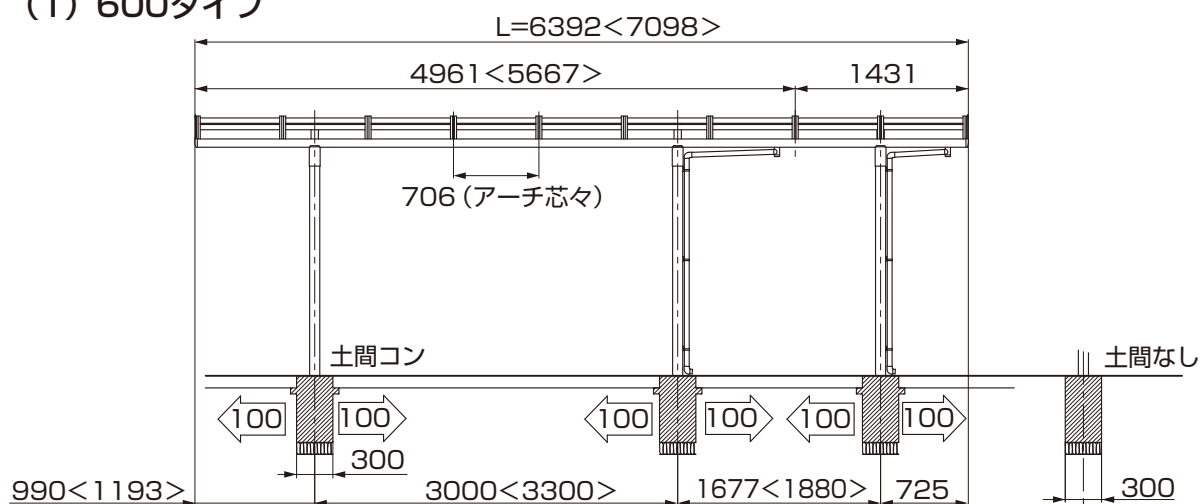
(2) 1500タイプ



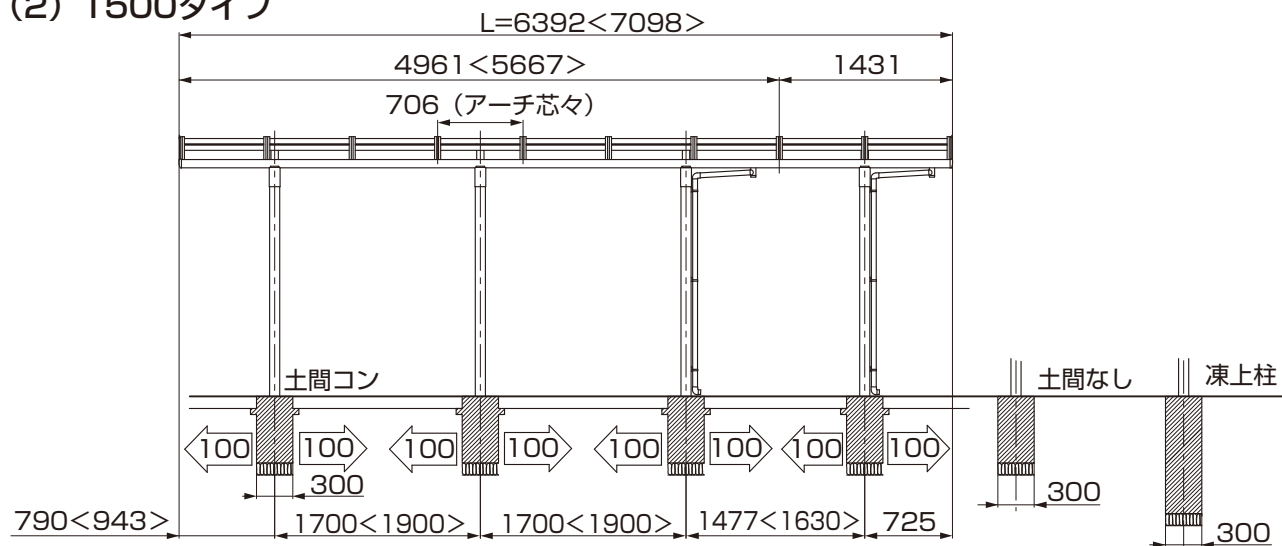
2-3 奥行き14延長縦連棟タイプ

※柱芯々寸法は±100mm以内にしてください。
※< >は奥行き57型を示します。

(1) 600タイプ



(2) 1500タイプ



2-4 奥行き縦連棟タイプ

※＜ ＞は奥行き57型を示します。

(1) 600タイプ

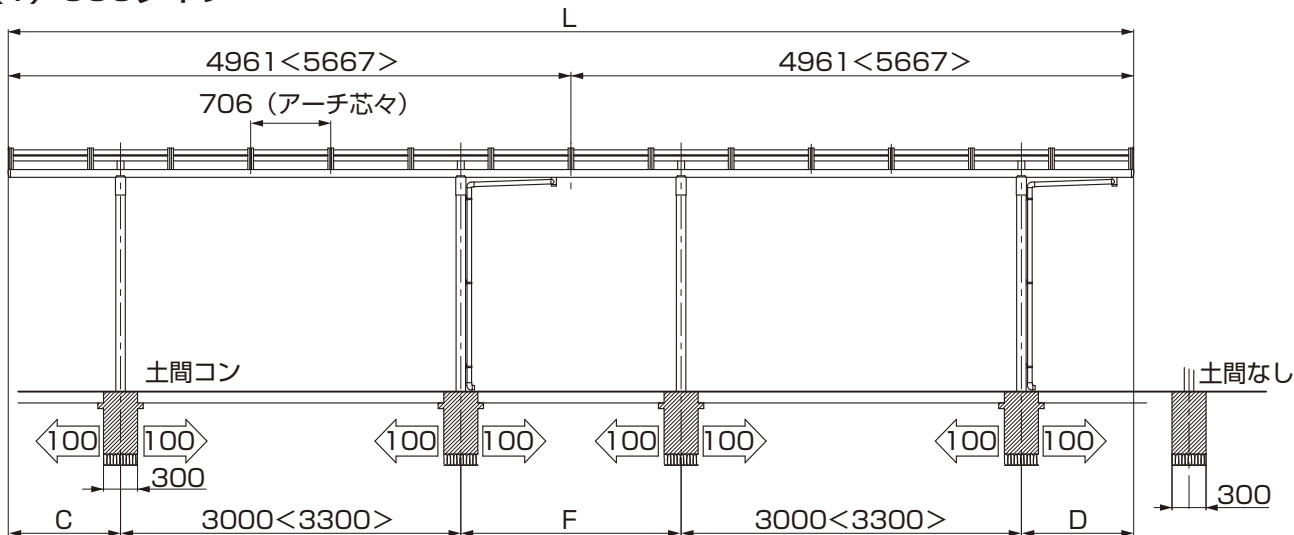


表2-2 寸法表

奥行き	L	F	C	D
50-50	9922	1942	990	990
50-57	10628	2145	990	1193
57-57	11334	2348	1193	1193

(2) 1500タイプ

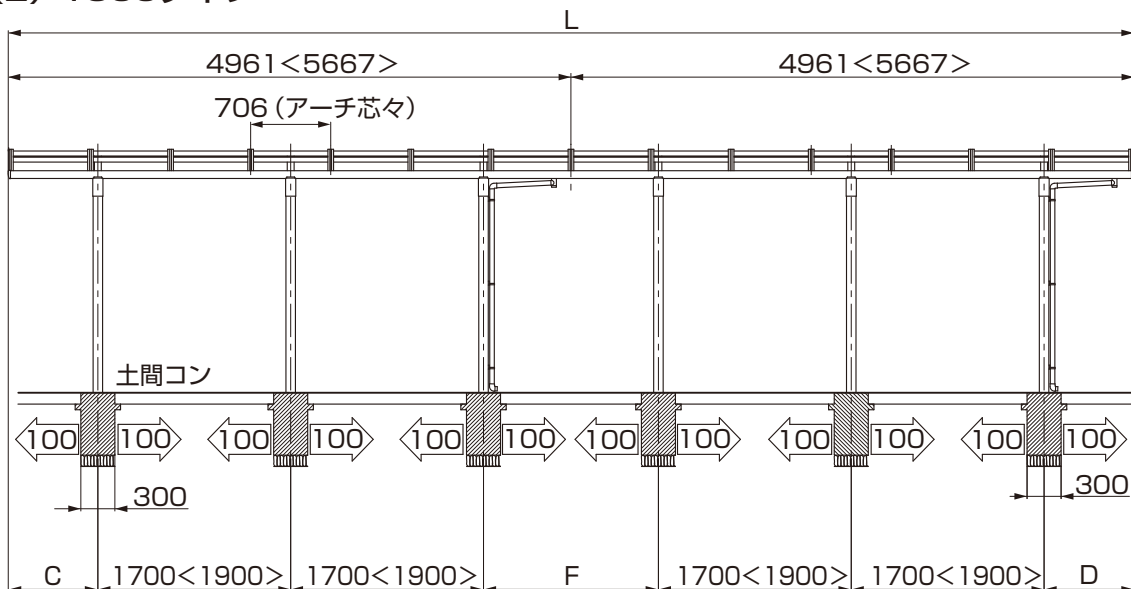
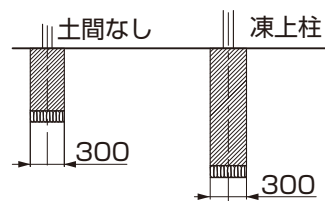


表2-3 寸法表

奥行き	L	F	C	D
50-50	9922	1542	790	790
50-57	10628	1695	790	943
57-57	11334	1848	943	943



3 基本の施工方法

1. 基礎の施工

1-1 600タイプ 基礎位置の墨出し

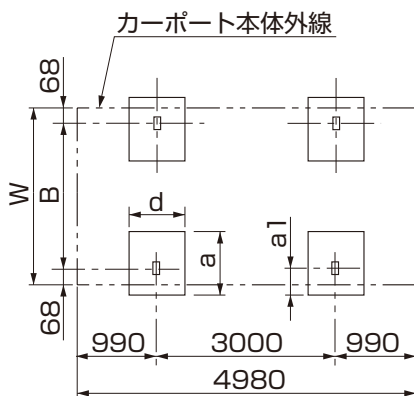


図1-1 50サイズ

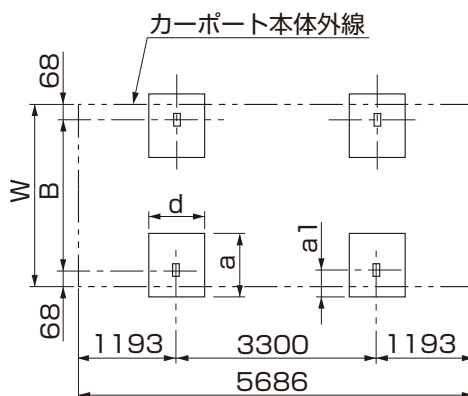


図1-2 57サイズ

表1-1

サイズ 呼称	W (屋根寸法)	B (柱芯々寸法)	土間なし 土間コンクリート共通		
			a	a1	d
27	2741	2605	400	200	300
30	3057	2921			

①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補足

●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

1-2 1500タイプ 基礎位置の墨出し

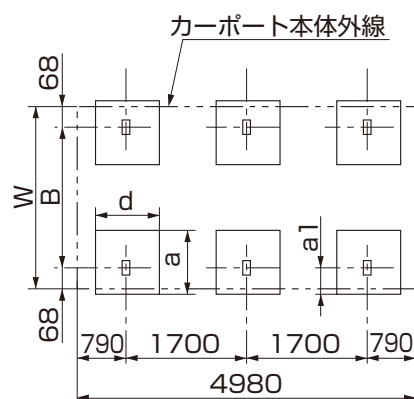


図1-3 50サイズ

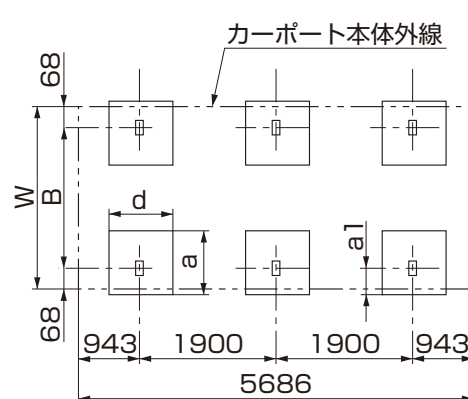


図1-4 57サイズ

表1-2

サイズ 呼称	W (屋根寸法)	B (柱芯々寸法)	土間なし 土間コンクリート共通		
			a	a1	d
27	2741	2605	400	200	300
30	3057	2921			

①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補足

●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

3. 母屋・後枠の取付け

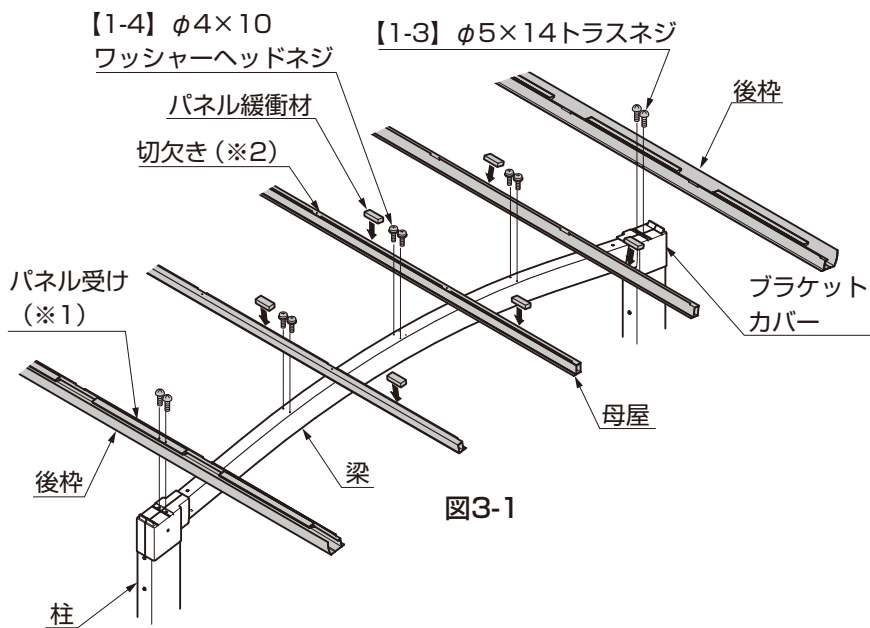


図3-1

①後枠をブラケットカバーに【1-3】で取付けてください。(図3-1参照)

ポイント

●パネル受けを後枠の切欠きと切欠き(※1)の間に均等になるように移動させてください。

②パネル緩衝材を母屋の切欠きと切欠き(※2)の間に貼付けてください。(図3-1、図3-2参照)

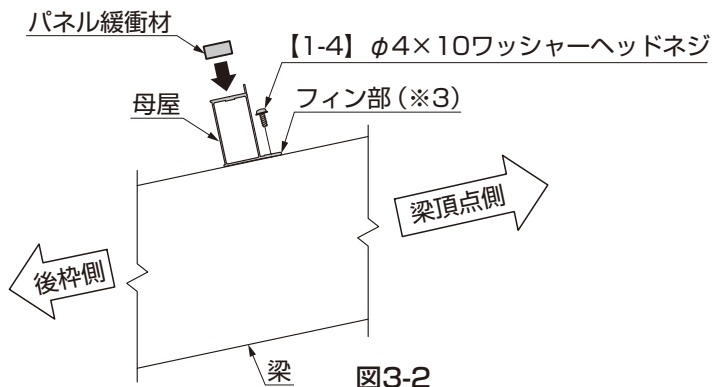


図3-2

③梁の頂点に母屋のフィン部(※3)が向くように母屋を梁に【1-4】で取付けてください。(図3-1、図3-2参照)

ポイント

●梁の頂点に母屋を取付ける際、フィン部を左側にする場合は、左側の穴(※4)を使用してください。(図3-3参照)フィン部を右側にする場合は、右側の穴(※5)を使用してください。(図3-4参照)
●梁の頂点の母屋の向きは左右どちらでも構いません。

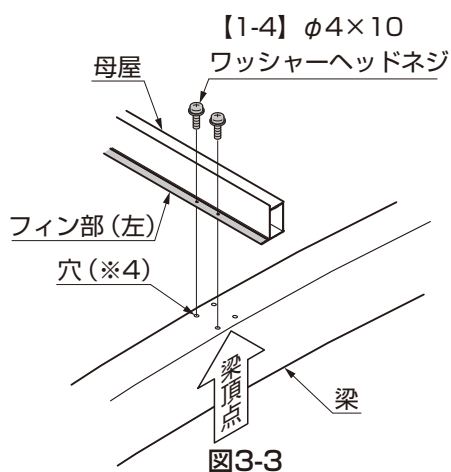


図3-3

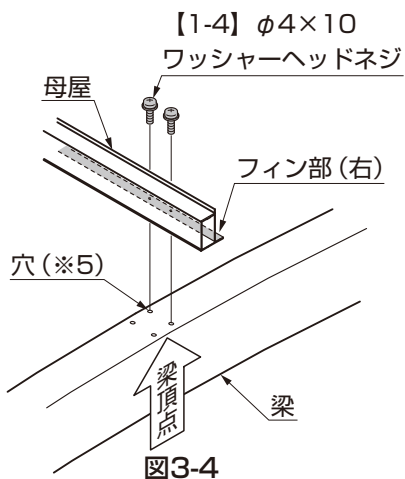
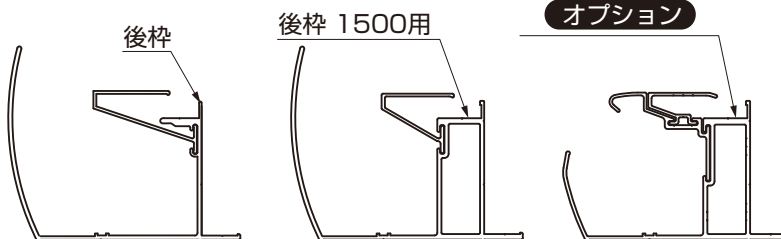


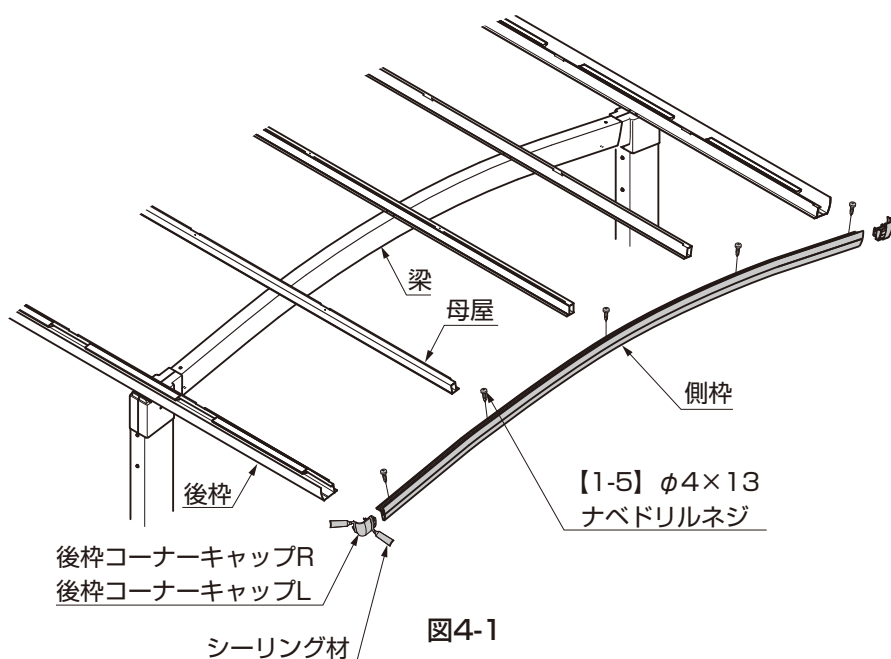
図3-4



ポイント

●柱を移動した場合は、後枠・母屋を梁に合わせて後枠はφ5.5、母屋はφ4.5の穴加工を行なってください。
●既存の加工穴には穴隠しシールを貼ってください。

4. 側枠・アーチの取付け



①後枠コーナーキャップR・後枠コーナーキャップLにシーリング材を充てんして、側枠に取付けてください。
(図4-1、図4-2参照)

②後枠・母屋のV溝(線)に側枠の穴を合わせて【1-5】で取付けてください。
(図4-1参照)

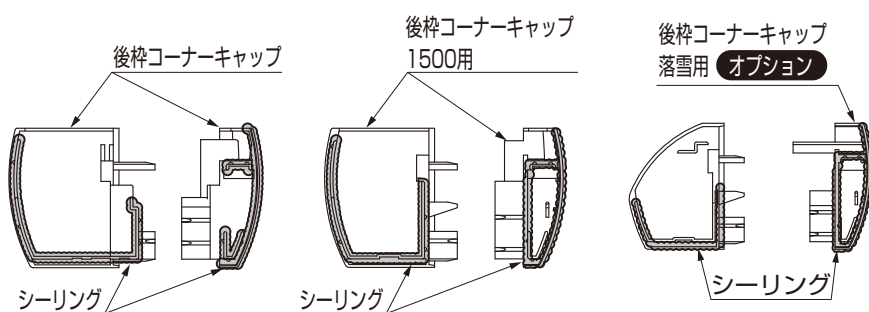


図4-2

補足

●アーチに左右はありません。

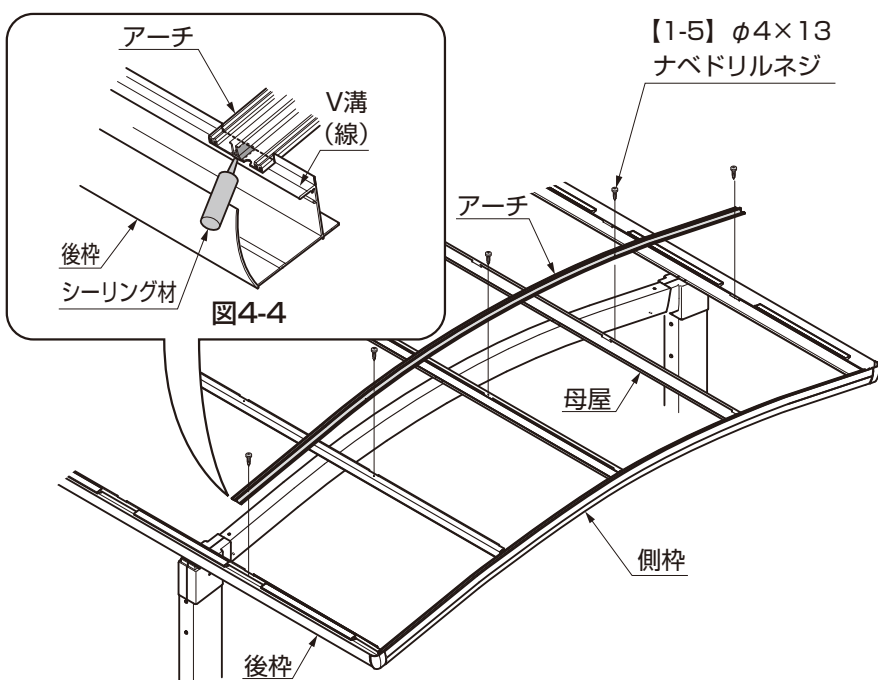


図4-3

③後枠・母屋のV溝(線)にアーチの穴を合わせて【1-5】で取付けてください。
(図4-3)

ポイント

- アーチは梁中央の母屋から順に取付けてください。
- アーチを後枠に取付ける前に、アーチと後枠のすき間にシーリング材を充てんしてください。
(図4-4参照)

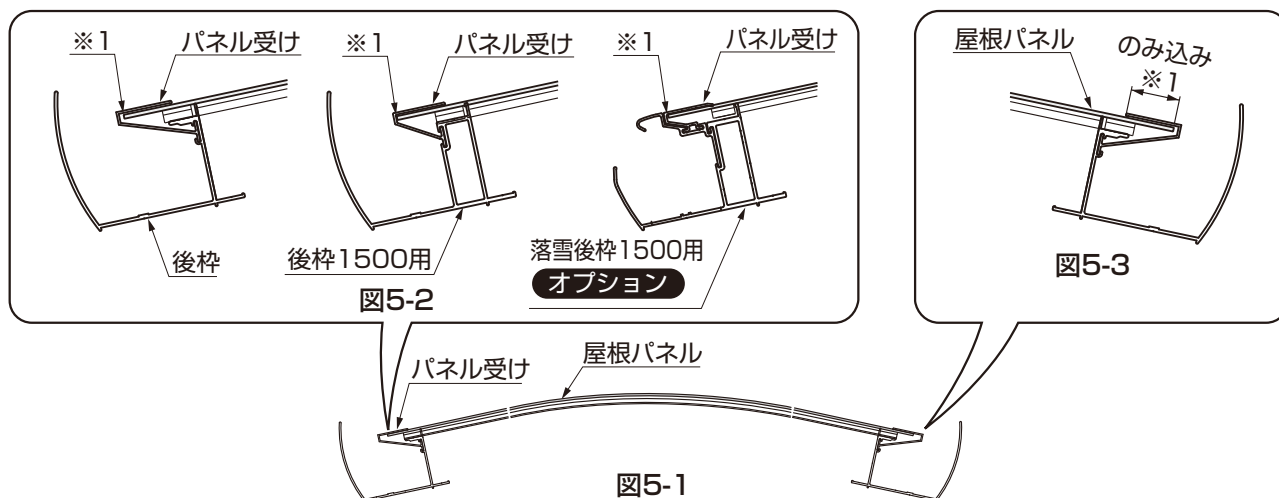
④屋根枠まわりの対角・水平および柱の垂直を出してください。

補足

●後枠・母屋には加工穴があいていません。V溝(線)に合わせて取付けてください。

5. 屋根パネルの取付け

5-1 屋根パネルの取付け

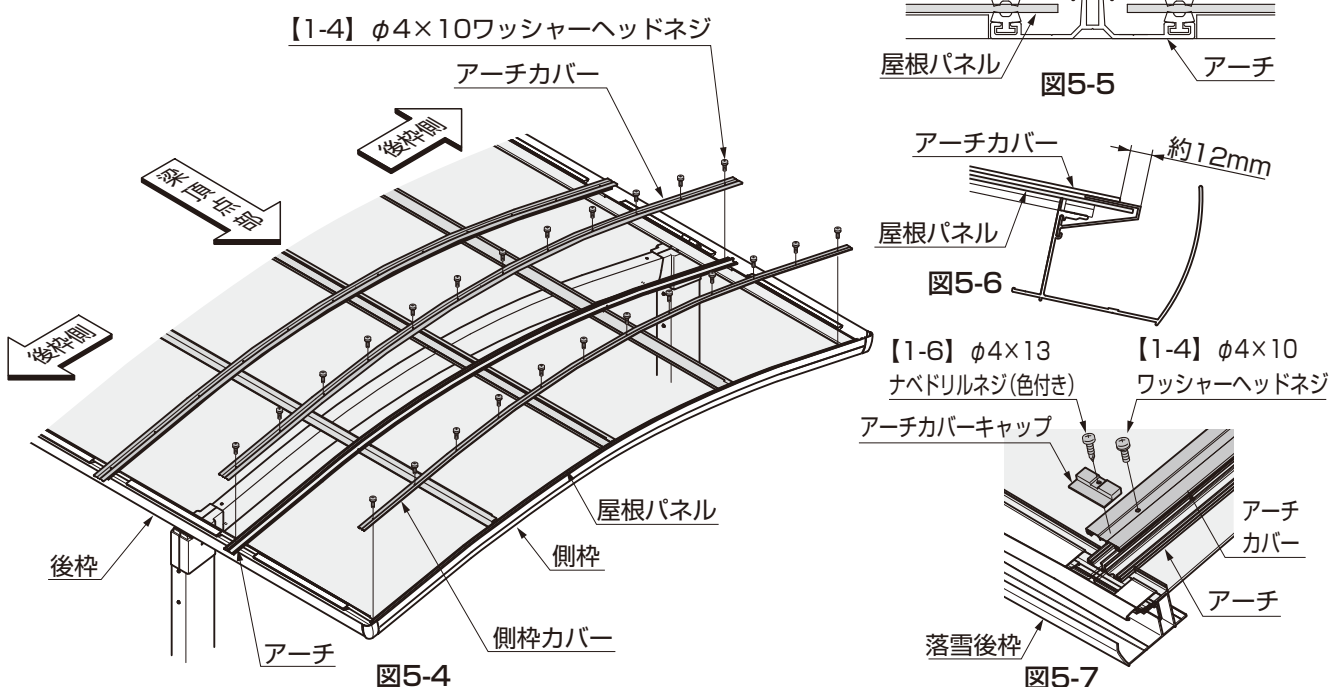


①屋根パネルをパネル受けに差込んでください。(図5-1、図5-2、図5-3参照)

ポイント

- 後枠（パネル受け）ののみ込み寸法は左右均等にしてください。（※1）
- アーチ部ののみ込み寸法は、左右均等にしてください。
- 屋根パネルは必ず裏表を確認し、保護シートをはがしてください。

5-2 側枠カバー・アーチカバーの取付け

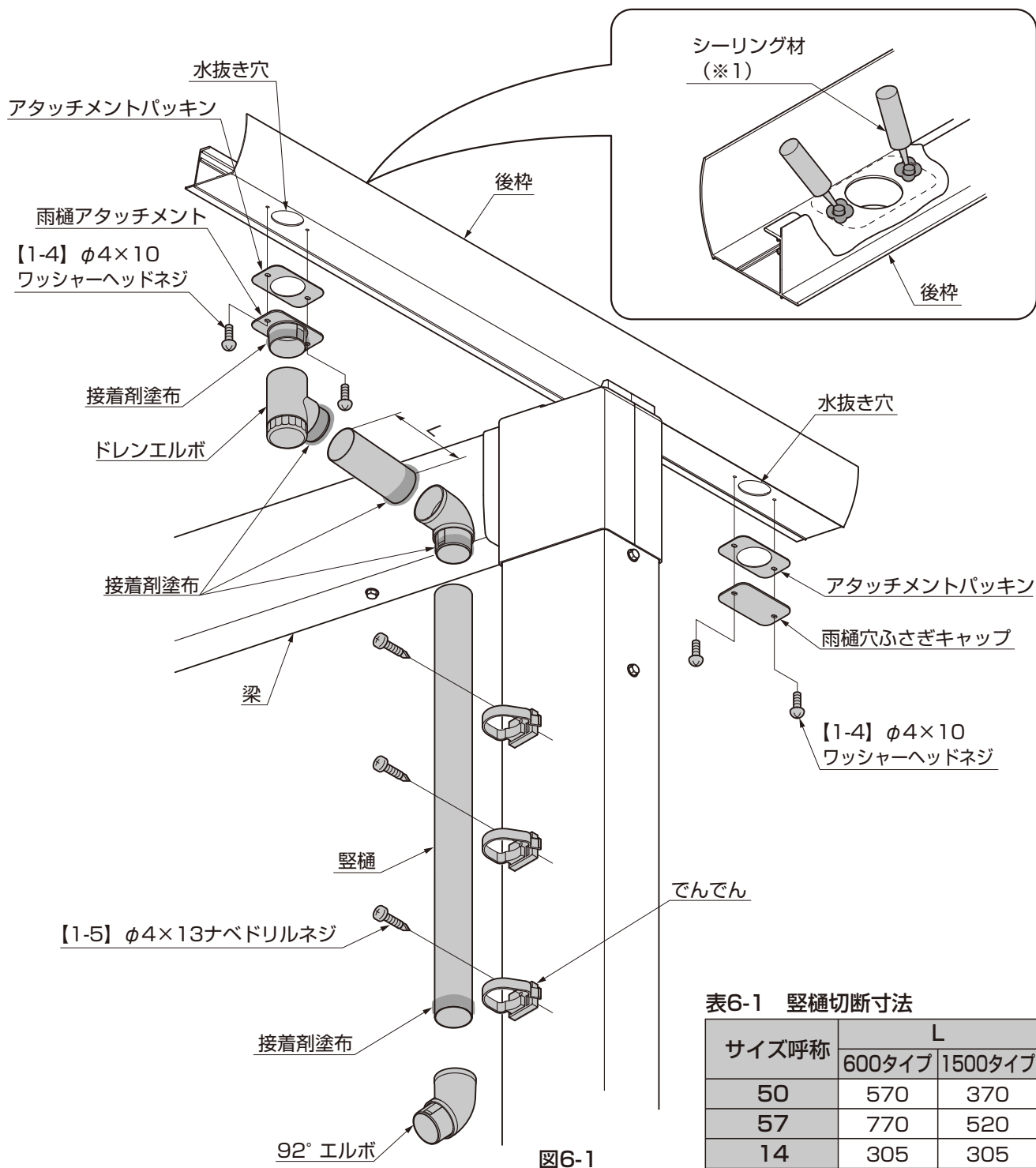


①アーチカバー・側枠カバーを梁頂点部から後枠側へアーチ・側枠に【1-4】で取付けてください。(図5-4参照)

ポイント

- アーチとアーチカバーがかみ合っていることを確認してください。(図5-5参照)
- アーチカバーは左右を均等（約12mm）にして取付けてください。(図5-6参照)
- 落雪後枠（1500タイプオプション）の場合は、アーチカバー端部にアーチカバーキャップを【1-6】で取付けてください。(図5-7参照)

6. 縦樋の取付け



① 縦樋を切断してください。(表6-1参照)

補足

● 柱を移動している場合は、寸法が異なります。

- ② 後枠両端の片方の水抜き穴にアタッチメントパッキン、雨樋アタッチメント、ドレンエルボ、縦樋、92° エルボ、でんでんを接着剤と【1-4】、【1-5】で取付けてください。
- ③ もう一方の水抜き穴に、アタッチメントパッキン、雨樋穴ふさぎキャップを【1-4】で取付けてください。
- ④ ネジ部にシーリング材を充てんしてください。(※1)

4 縦連棟および延長タイプの施工方法

1. 基礎の施工

1-1 600タイプ 奥行き50サイズ+50サイズ

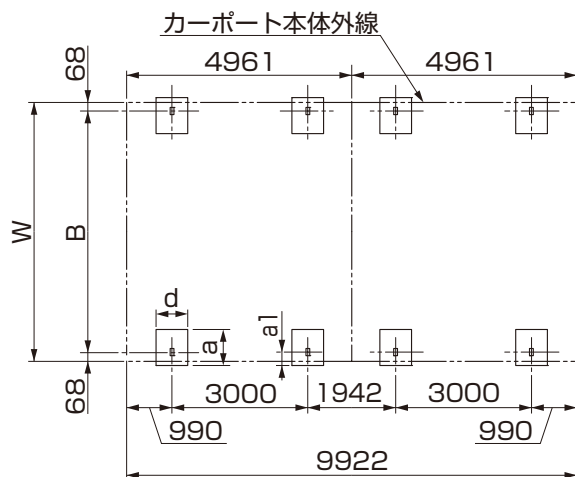


表1-1

サイズ 呼称	W (屋根寸法)	B (柱芯々寸法)	土間なし・土間コンクリート共通		
			a	a1	d
27	2741	2605	400	200	300
30	3057	2921			

①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補足

●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称 2.基本寸法」を参照してください。

●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

1-2 600タイプ 奥行き50サイズ+57サイズ

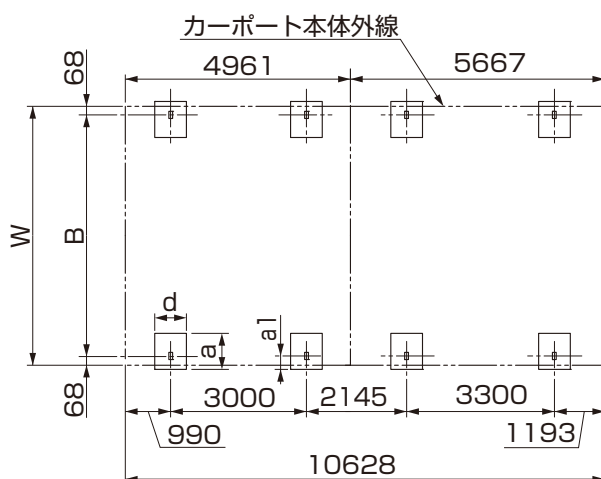


表1-2

サイズ 呼称	W (屋根寸法)	B (柱芯々寸法)	土間なし・土間コンクリート共通		
			a	a1	d
27	2741	2605	400	200	300
30	3057	2921			

①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補足

●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称 2.基本寸法」を参照してください。

●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

1-3 600タイプ 奥行き57サイズ+57サイズ

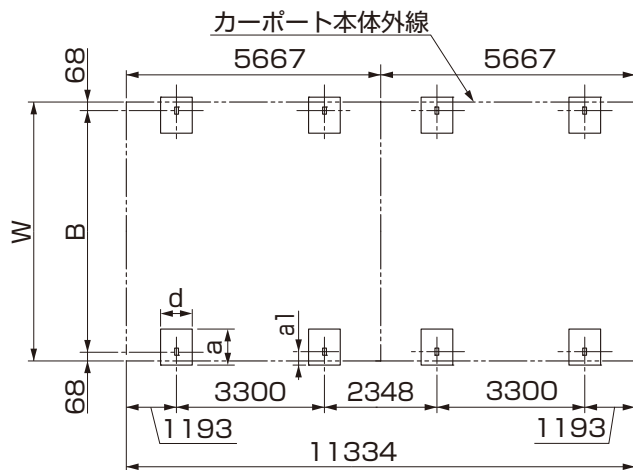


表1-3

サイズ 呼称	W (屋根寸法)	B (柱芯々寸法)	土間なし・土間コンクリート共通		
			a	a1	d
27	2741	2605	400	200	300
30	3057	2921			

①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

⚠ 注意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

🔑 ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

🔧 補足

●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称 2.基本寸法」を参照してください。

●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

1-4 1500タイプ 奥行き50サイズ+50サイズ

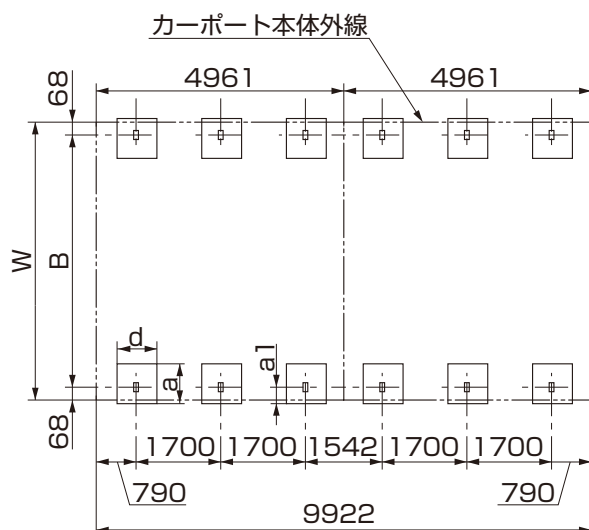


表1-4

サイズ 呼称	W (屋根寸法)	B (柱芯々寸法)	土間なし・土間コンクリート共通		
			a	a1	d
27	2741	2605	400	200	300
30	3057	2921			

①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

⚠ 注意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

🔑 ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

🔧 補足

●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称 2.基本寸法」を参照してください。

●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

1. つづき

1-5 1500タイプ 奥行き50サイズ+57サイズ

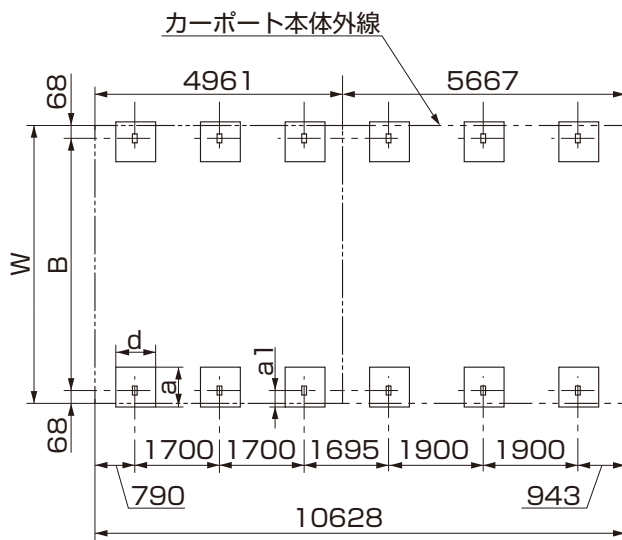


表1-5

サイズ 呼称	W (屋根寸法)	B (柱芯々寸法)	土間なし・土間コンクリート共通		
			a	a1	d
27	2741	2605	400	200	300
30	3057	2921			

①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補足

●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称 2.基本寸法」を参照してください。

●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

1-6 1500タイプ 奥行き57サイズ+57サイズ

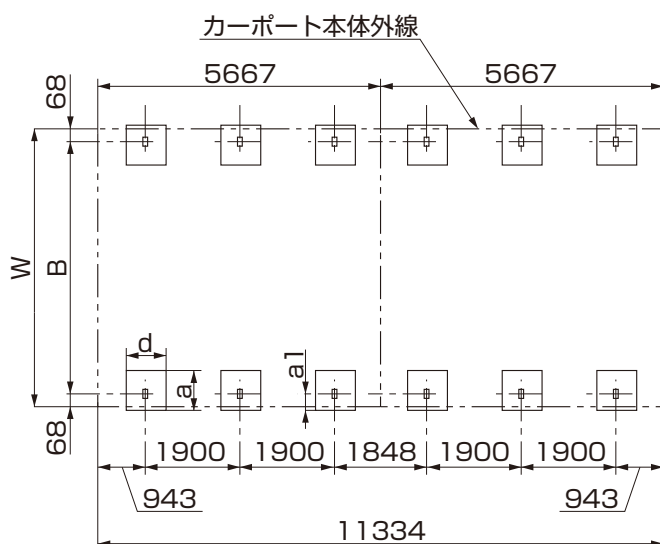


表1-6

サイズ 呼称	W (屋根寸法)	B (柱芯々寸法)	土間なし・土間コンクリート共通		
			a	a1	d
27	2741	2605	400	200	300
30	3057	2921			

①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補足

●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称 2.基本寸法」を参照してください。

●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

1-7 600タイプ 奥行き50サイズ+14サイズ

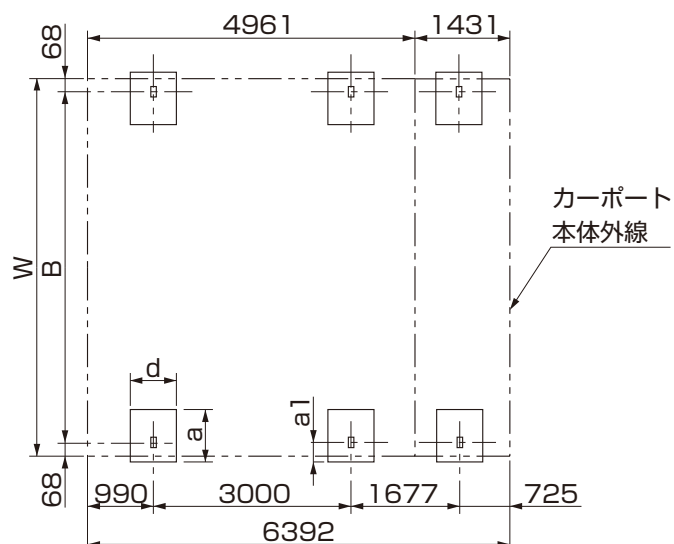


表1-7

サイズ 呼称	W (屋根寸法)	B (柱芯々寸法)	土間なし・土間コンクリート共通		
			a	a1	d
27	2741	2605	400	200	300
30	3057	2921			

①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

⚠ 注意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

🔑 ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

✎ 補足

●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称 2.基本寸法」を参照してください。

●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

1-8 600タイプ 奥行き57サイズ+14サイズ

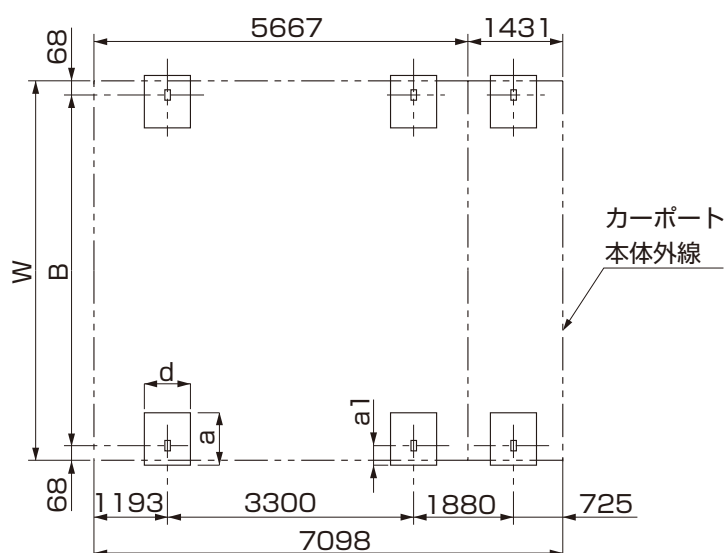


表1-8

サイズ 呼称	W (屋根寸法)	B (柱芯々寸法)	土間なし・土間コンクリート共通		
			a	a1	d
27	2741	2605	400	200	300
30	3057	2921			

①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

⚠ 注意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

🔑 ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

✎ 補足

●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称 2.基本寸法」を参照してください。

●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

1. つづき

1-7 1500タイプ 奥行き50サイズ+14サイズ

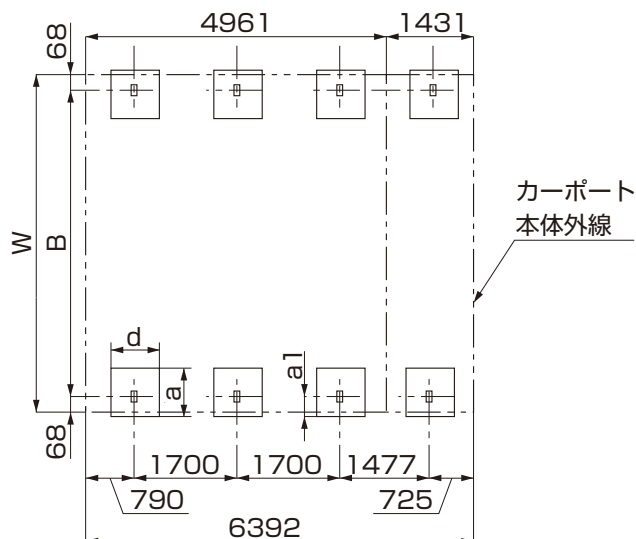


表1-7

サイズ 呼称	W (屋根寸法)	B (柱芯々寸法)	土間なし・土間コンクリート共通		
			a	a1	d
27	2741	2605	400	200	300
30	3057	2921			

①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補足

●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称 2.基本寸法」を参照してください。
●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

1-8 1500タイプ 奥行き57サイズ+14サイズ

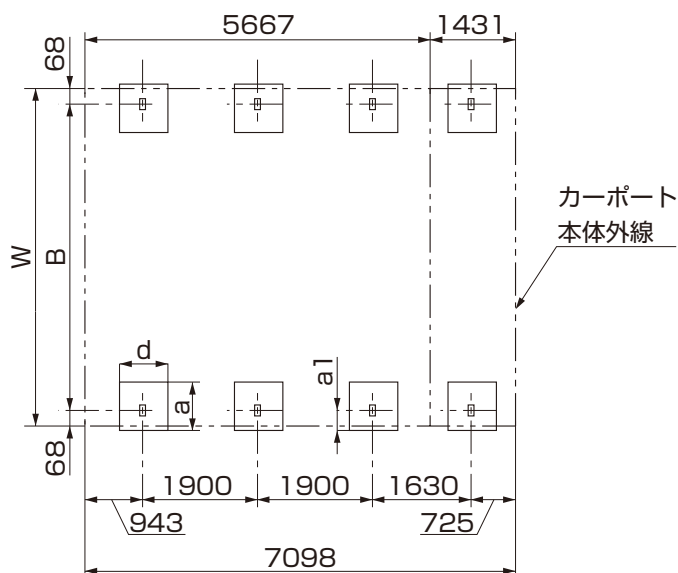


表1-8

サイズ 呼称	W (屋根寸法)	B (柱芯々寸法)	土間なし・土間コンクリート共通		
			a	a1	d
27	2741	2605	400	200	300
30	3057	2921			

①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補足

●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称 2.基本寸法」を参照してください。
●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

2. 本体の連結

2-1 連棟部の加工 ※ () 内寸法は、1500タイプの場合です。

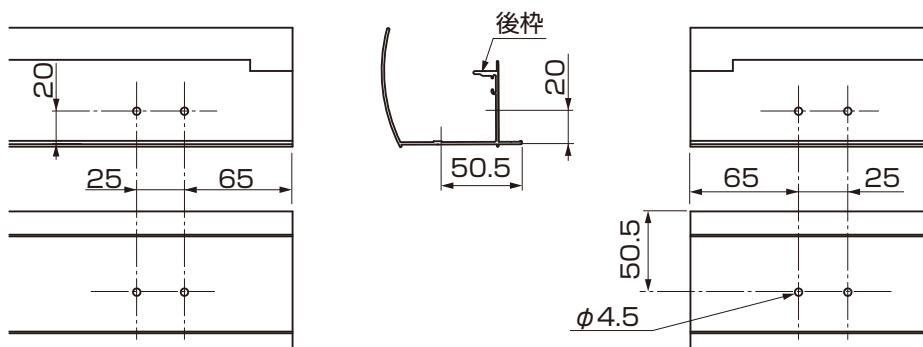


図2-1 後枠の加工

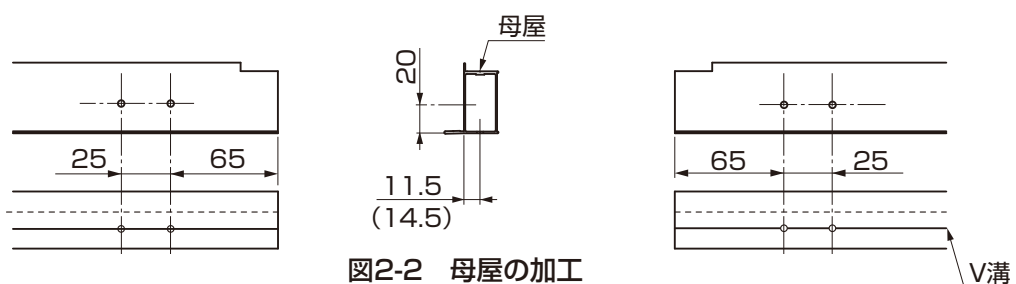


図2-2 母屋の加工

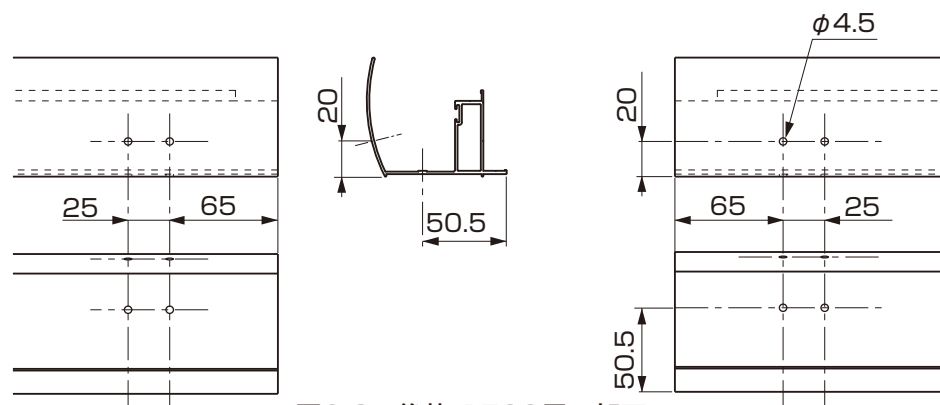


図2-3 後枠 1500用の加工

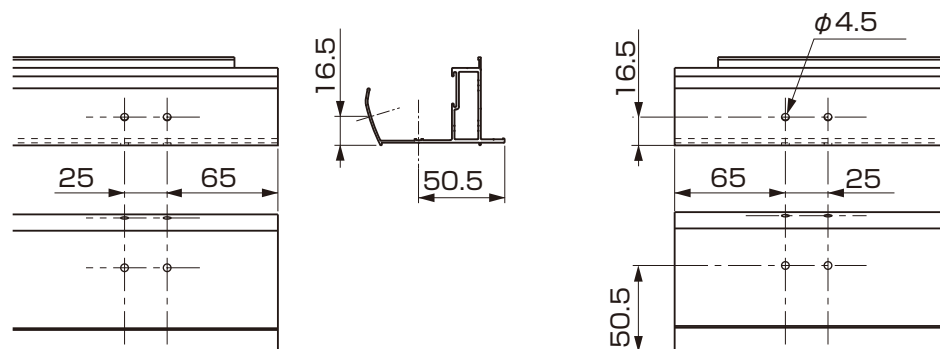


図2-4 落雪後枠 1500用 **オプション** の加工

①後枠・母屋の連棟側を穴加工してください。(図2-1、図2-2参照)

ポイント

●母屋側面の穴加工はフィン側にしてください。

2. つづき

2-2 連棟部の連結

【11-1】φ4×13ナベドリルネジ

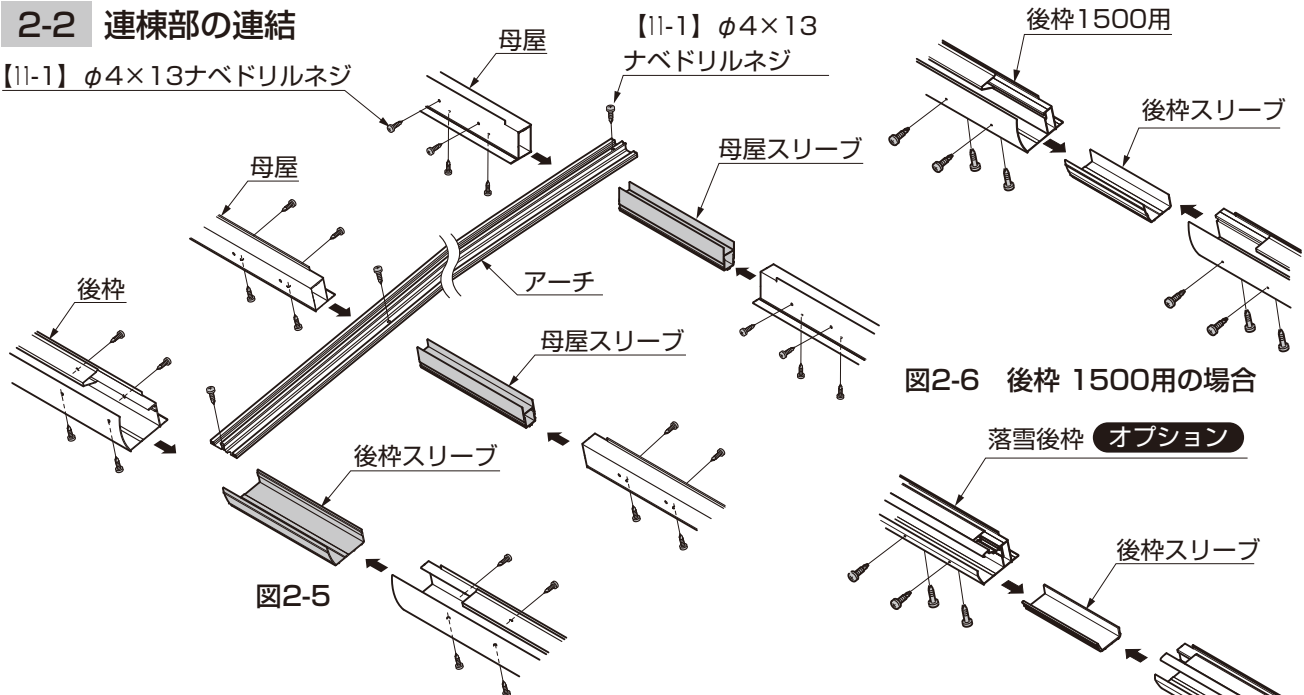


図2-5

図2-6 後枠 1500用の場合

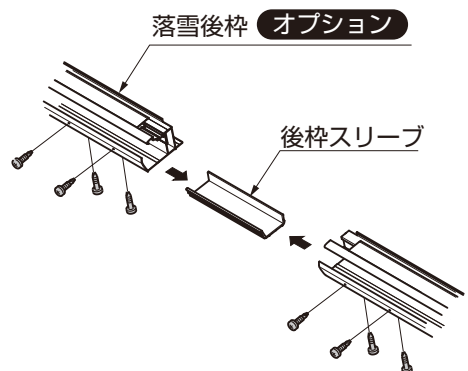


図2-7 落雪後枠1500用(オプション)の場合

- ①母屋・後枠にそれぞれ母屋スリーブ、後枠スリーブを【11-1】で取付けて連結してください。(図2-5参照)
- ②全ての【11-1】の回りにシーリング材を充てんしてください。

ポイント

●連棟部分以外の組立ては、「3.基本の施工方法」を参照してください。

2-3 シーリング処理

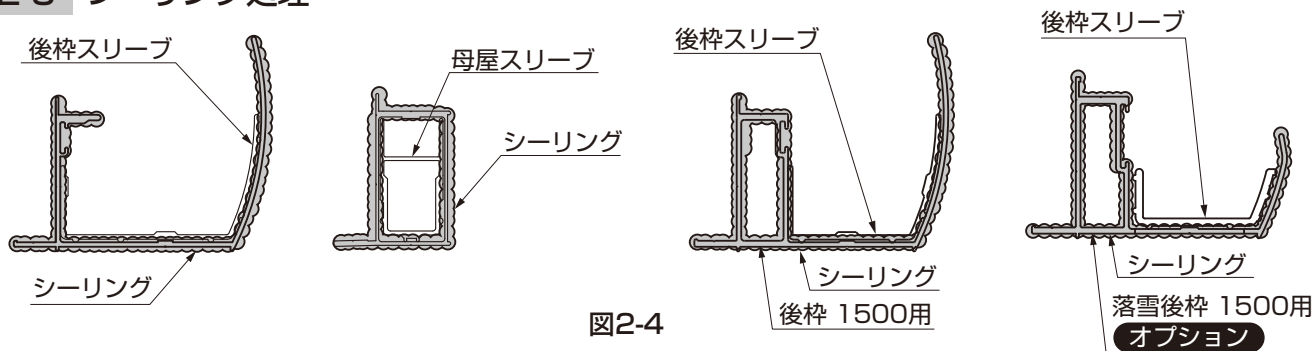


図2-4

- ①連棟部分にシーリング材を充てんしてください。(図2-4参照)